

●●●2020年7月～9月期 栃木県中小企業景況調査(165回)●●●

【栃木県DI指数天気図】 **point!**






今期(県内全体)の業況

DI値
-41.6
※全国 -34.1



県内全体の業況は、前期比 21.8ポイント改善し、DI値は-41.6となったが、全国のDI値よりも7.5ポイント低かった。業種別にみると、製造業は売上額などの項目が深刻な悪化、建設業、小売業、サービス業については、多くの項目で大幅な改善が見られた。しかし、コロナ禍以前の数値にはほど遠く、全業種において経営上の問題点に「需要の停滞」を1位にあげており、新型コロナウイルス感染症の影響が景気を大きく左右している。来期の業況は僅かに2.2ポイントと改善となる見込み。製造業、建設業、サービス業は改善傾向にある一方、小売業は悪化が見込まれる。

～天気図の指標～

現状	良い	やや良い	やや悪い	悪い	とても悪い
天気図					
DI値	15.1～	15～0.1	0～-15	-15.1～-40	-40.1～

業種	項目	今期(全体)	売上額	仕入単価※	採算	資金繰り	来期予想(全体)
製造業	DI値	-41.4	-86.7	10.4	-83.3	-60.0	-40.8
	業況	前期比では大幅に改善したが、売上額と採算が深刻な悪化 (DI値 前期比+34.7ポイント)					
建設業	DI値	-28.2	-25.0	30.0	-40.0	-25.0	-22.5
	業況	売上額と資金繰りが大幅に改善したが、全体的には停滞 (DI値 前期比+1.0ポイント)					
小売業	DI値	-42.2	-47.5	25.0	-57.5	-32.5	-48.7
	業況	売上額と資金繰りは改善、来期は全体的に悪化の見通し (DI値 前期比+19.2ポイント)					
サービス業	DI値	-45.0	-64.9	15.0	-61.7	-35.0	-38.7
	業況	仕入単価以外が改善、来期は全体的に改善の見込み (DI値 前期比+20.3ポイント)					

※仕入単価はプラスになるほど悪化となります

【経営上の問題点】

製造業

- 第1位： 需要の停滞 (54.8%)
- 第2位： 製品(加工)単価の低下・上昇難 (8.2%)
- 第3位： 製品ニーズの変化への対応 (6.8%)

小売業

- 第1位： 需要の停滞 (30.5%)
- 第2位： 消費者ニーズの変化への対応(27.1%)
- 第3位： 大・中型店の進出による競争の激化 (13.6%)

建設業

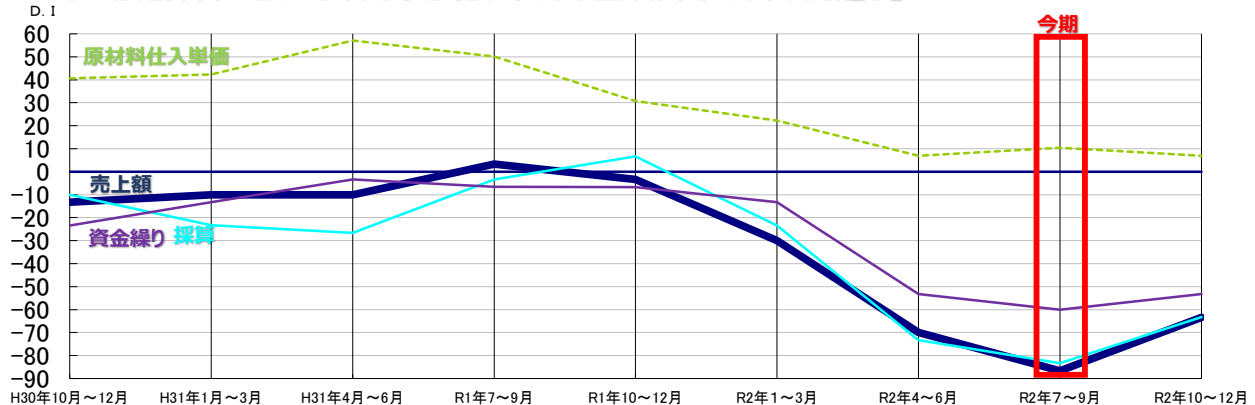
- 第1位： 民間需要の停滞(30.3%)
- 第2位： 従業員の確保難(24.2%)
- 第3位： 材料価格の上昇 (12.1%)

サービス業

- 第1位： 需要の停滞 (28.3%)
- 第2位： 利用者ニーズの変化への対応 (19.6%)
- 第3位： 店舗施設の狭隘・老朽化 (8.7%)

製造業

「売上額と採算において深刻な悪化、来期は全項目で改善の見通し」

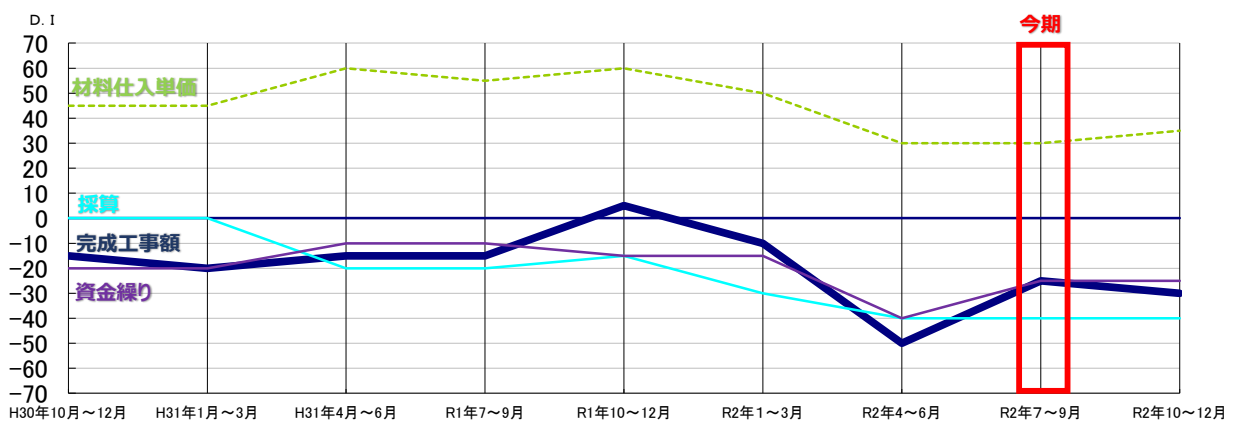


「売上額は-16.8ポイント」(-69.9→-86.7)、「採算」は-10.0ポイント(-73.3→-83.3)「資金繰り」は-6.7ポイント(-53.3→-60.0)と、全ての項目で悪化となり、新型コロナウイルス感染症の影響の深刻さがうかがえる。来期は「売上額」が23.3ポイント(-86.7→-63.4)、「採算」が20.0ポイント(-83.3→-63.3)と大幅に改善する見込みである。

「原材料仕入単価」は小幅に悪化(6.9→10.4)したが、来期は、前期と同値まで回復すると見込まれる。

建設業

「完成工事額（売上額）と資金繰りは大幅に改善、来期の主要項目は停滞の見込み」



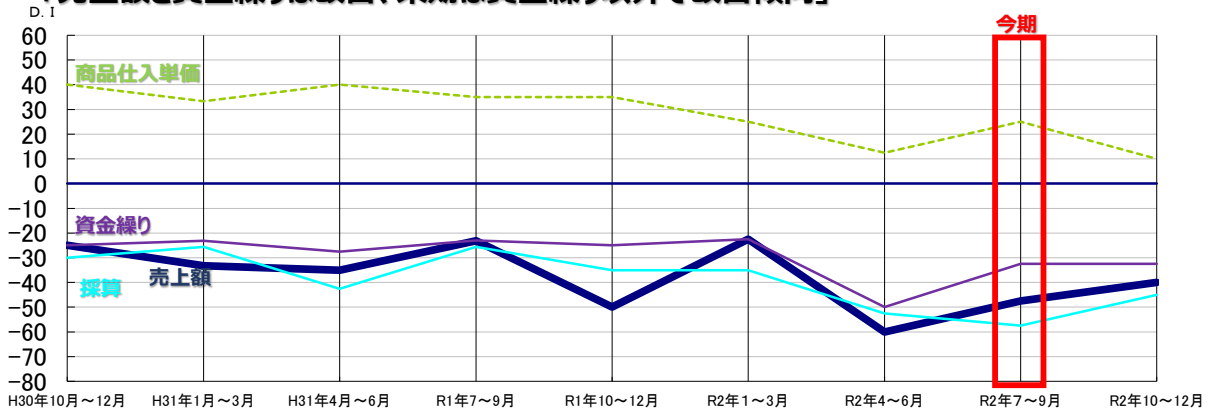
「完成工事額（売上額）」が25.0ポイント(-50.0→-25.0)、「資金繰り」が15.0ポイント(-40.0→-25.0)と大幅な改善となったが、「採算」(-40.0→-40.0)は変動がなかった。

来期において、「完成工事額（売上額）」は小幅な悪化(-25.0→-30.0)となり、「資金繰り」(-25.0→-25.0)と「採算」(-40.0→-40.0)は横ばいが見込まれる。

「材料仕入単価」(30.0→30.0)についても変動はなく、来期も横ばいとなる見通しである。

小売業

「売上額と資金繰りは改善、来期は資金繰り以外で改善傾向」



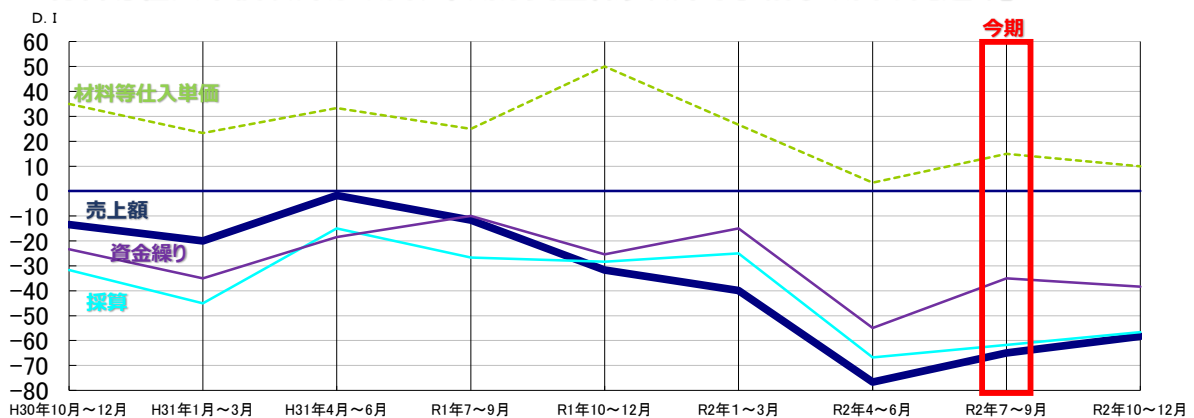
「売上額」が12.5ポイント(-60.0→-47.5)、「資金繰り」は17.5ポイント (-50.0→-32.5) と大幅に改善したが、「採算」は-5.0ポイント(-52.5→-57.5)と小幅な悪化となった。

来期において、「資金繰り」は横ばいであるものの、「売上額」は7.5ポイント (-47.5→-40.0)、「採算」は12.5ポイント (-57.5→-45.0) と改善の見通しである。

「商品仕入単価」は12.5ポイント (12.5→25.0) 悪化したが、来期は15.0ポイントの大幅な改善が見込まれる。

サービス業

「材料等仕入単価以外は改善、来期は資金繰り以外で小幅な改善の見込み」



「売上額」が11.8ポイント(-76.7→-64.9)、「資金繰り」が19.9ポイント(-54.9→-35.0)の改善となり、「採算」についても5.0ポイント(-66.7→-61.7)と小幅に改善した。

来期は「売上額」が6.6ポイント、「採算」が5.1ポイントと小幅に改善する一方、「資金繰り」が-3.3ポイントと小幅に悪化となる見込みである。

「材料等仕入単価」は11.6ポイント(3.4→15.0)と悪化したが、来期は小幅に改善する見通しである。

調査要領

○調査の目的

中小企業景況調査は、全国の商工会地区に地域経済観測点を設置し、地域の産業の状況や経済動向等について、一定時期ごとに変化の実態諸情報を迅速かつ的確に収集・提供して、経営改善普及事業の効果的実施に資するものとする。本報告書は、栃木県内商工会地区における、「製造業」「建設業」「小売業」「サービス業」の4業種を、主要景況項目(売上額・原材料仕入単価・採算・資金繰り)から分析し、景況情報をまとめたものである。

○調査対象地区（栃木県商工会地区）

栗野・にのみや・石橋・桑絹・大平町
岩舟町・塩谷町・高根沢町・那須烏山・足利市坂西

○調査時点

2020年9月1日

○調査対象期間

2020年7月～9月期の実績及び、2020年10月～12月期の見通しについて調査

○調査方法

商工会の経営指導員による訪問調査

○回答企業数内訳

業種	回答企業数	構成比(%)
製造業	30	20.0%
建設業	20	13.3%
小売業	40	26.7%
サービス業	60	40.0%
合計	150	100.0%

※D I 指数とは

報告書に登場するD I 値とは、デフュージョン・インデックス(Diffusion Index = 景気動向指数)の略であり、各調査項目についての増加(上昇・好転)企業割合から減少(低下・悪化)企業割合を差し引いた値を示すものである。

D I 値がプラスのときは業況の好転、マイナスのときは業況の悪化を示すことから、景気の動向を判断する指数として利用される。また、D I 値は強気・弱気など、景況感の相対的な広がりを示すものであり、売上額などの実数値の上昇率とは異なる。

たとえば、今期の売上額を前年同期と比較した結果、増加企業が50%、不変企業が30%、減少企業が20%となったとすると、D I 値は $50 - 20 = 30$ となり、売上額に対して強気の度合いを示している。